

第 16 章 浄禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高 12～14m で現谷底との比高差は 2m を測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は 1989 年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2022 年 2 月現在、55 地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡 1 軒、中期住居跡 4 軒、中・近世の薬研状の堀や遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壇墓 157 基、一字一石経約 76,000 点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禅寺跡遺跡第 56 地点

(1) 調査の概要

調査は宅地開発・分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2021 年 10 月 18 日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。試掘調査は 2021 年 11 月 5～16 日、12 月 3～7 日に、幅約 1.5m のトレンチを 16 本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構を確認した。遺構確認面までの深さは約 0.2～2 m で、道路の築造や地盤改良、切土等により遺構の保存が困難なため、2022 年 1 月 20～31 日まで本調査を行った。縄文時代の土坑 5 基、炉穴 13 基、時期不明の溝 4 条を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。



第 54 図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 36 表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間字東久保 579-2 ～8	(1979.4.3～21)	605		共同住宅	炉穴、土坑、縄文土器 等	苗間東久保 1 地点へ変更 (欠番とする)	東部Ⅰ
2	苗間字東久保 573-3	(1982.4.1～3)	396		共同住宅	遺構なし、縄文土器	苗間東久保 7 地点へ変更 (欠番とする)	東部Ⅲ
82-1	苗間字神明前 568-7 ～9	(1982.4.2～9)	360		共同住宅	遺構遺物なし	(旧苗間東久保 8 地点)	東部Ⅳ
3	苗間字東久保 581	1984.7.20・21	320		共同住宅	遺構なし、縄文土器	(旧苗間東久保 12 地点)	未報告
4	苗間字神明後 346-1	1989.11.15～25	150		開発予定地	炉穴、土坑、ビット、縄文土器		東部Ⅹ
5	苗間 374-9	1991.8.28～9.3	100		個人住宅	根切り溝、縄文土器		町内Ⅰ
6	苗間 358-1	1991.9.21～24	826		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内Ⅰ
7	苗間字東久保 573-4	(1992.7.8～17) 1992.10.28～11.24	831		共同住宅	炉穴、ビット、堀跡、井戸、縄文 土器		大調 5、 町内Ⅱ
8	苗間 357-1	(1994.9.20～27)	615		宅地分譲	落とし穴、溝、縄文土器 等		町内Ⅳ
9	苗間 353	(1994.10.18) 2007.5.22～24	1,266	70	農地改良 (個人住宅)	焼土、土坑、溝、縄文土器 等		町内Ⅳ、 市内 4
10	苗間 356-1	1994.10.31～11.2	999		宅地分譲	土坑墓、溝、一字一石経 等		大調 12
11	苗間 352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572		道路	湧水口、焼土、陶磁器 等		町内Ⅳ
12	苗間 35-95	1995.9.25～10.21	140		個人住宅	屋外炉、遺構外土器集中、ビット、 溝、縄文土器 等		町内Ⅴ
13	苗間 314-2	(1996.1.8～29)	101		個人住宅	土坑、ビット、溝、井戸、縄文土 器 等		町内Ⅴ
14	苗間 360-1、362-2	(1996.6.3～12) 1996.6.18～7.11	2,178		個人住宅	礫群、落とし穴、ビット、溝、縄 文土器 等		町内Ⅵ
15	苗間 362-4・5	(1996.6.3～12) 1996.7.12～8.2	494		分譲住宅	炉穴、土器		町内Ⅵ
16	苗間 579-1	1997.11.10～12.19	291		個人住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、土坑、ビッ ト、溝、縄文土器		町内Ⅶ
17	苗間 345-2・10	(1998.9.29～10.2)	877		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内Ⅷ
18	苗間 345-3・4	(1999.5.26～6.24) 1999.6.26～8.3	599	303	個人住宅	炉穴、集石土坑、土坑、ビット、溝、 縄文土器 等		町内Ⅸ
19	苗間字神明後 345- 15・16	(1999.8.18～27) 1999.8.28～9.14	703	703	分譲住宅	掘立柱建物跡 6、炉穴、焼土、集石 土坑、土坑、溝、井戸、縄文土器 等		大調 15、 町内Ⅸ
20	苗間字神明後 351-1	(2001.10.26～29)	223	(17.6)	倉庫	遺構なし、陶磁器		町内Ⅺ
21	苗間字東久保 591-3、 592-7	(2001.11.19・20)	182	(12)	個人住宅	溝、遺物なし		町内Ⅺ
22	苗間 373-5・8、377- 5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935		分譲住宅	土坑、ビット、溝、遺物なし		町内Ⅻ
23	苗間 592-1	(2003.4.28)	100		個人住宅	ビット、溝、遺物なし		町内Ⅻ
24	苗間字神明後 346- 1・2 の一部	(2004.8.30・31)	391		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
25	苗間字神明後 339- 1・2 の各一部 苗間神明後 338-8、 339-2	(2004.9.22～10.12) (2012.6.27)	721 844.8	(15)	共同住宅 個人住宅	ビット、遺物なし 遺構遺物なし		町内Ⅻ 市内 14
26	苗間字神明後 354-2 の一部 354-23・24	(2005.3.3～8) 2007.4.17～28、6.7 ～15	226	(216)	分譲住宅	炉穴、土坑、ビット、溝、縄文土器		町内Ⅻ、 市内 3
27	苗間字神明後 354-2	(2005.12.1～2006.1.22) 2006.1.23～2.22	696	224	道路及び 分譲住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、屋外埋塞、 土坑、ビット、溝、縄文土器 等		市内 2
28	苗間字東久保 719-7、 720-1	(2007.1.23)	2,478	(22)	園舎改築	溝、遺物なし		市内 3
29	苗間 570-1・2、571- 1・2、575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	(1,251) 818	分譲住宅	中近世掘立柱建物跡 3、土坑、ビッ ト、堀跡、溝、井戸、地下式坑、 縄文土器 等		市内 4
30	苗間 359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	(414) 100	分譲住宅	茶毘跡、木炭窯、落とし穴、土坑、 ビット、溝、陶磁器 等		市内 4
31	苗間字神明後 342-14 の一部	(2008.2.19) 2008.2.19～3.5	171	(109) 109	個人住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、土坑、ビッ ト、縄文土器 等		市内 4
32	苗間字神明後 340- 17、342-10・15	(2007.2.25～3.4)	188	(40)	個人住宅	堀跡、ビット、縄文土器		市内 4
33	苗間字神明後 340-21	(2010.8.6) 2010.10.22	76	(1.2)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内 10
34	苗間字東久保 586-7、 587-2 の一部	(2012.8.24)	160	(48)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
35	苗間字東久保 582-8	(2012.4.4)	80	(16)	個人住宅	ビット、縄文土器		市内 15
36	苗間字東久保 573-5 の一部	(2012.8.6～9) 2012.9.5～12	400	(90) 96	宅地造成 (個人住宅)	土坑、ビット、堀跡、溝、縄文土 器		市内 15

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
37	苗間字東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
38	苗間東久保 578-11	(2013.5.13・14)	53.42	(15.9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
39	苗間字神明前 565-1	(2013.6.25～7.3)	1,709	(564)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 18
40	苗間字神明後 355-1・2・12	(2015.8.19～9.30) 2015.10.1～11.9	2,308.06	(619) 456	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、地下式坑、縄文土器		市内 19・22
41	苗間字神明前 509-1・5	(2015.12.21)	349.73	(85.4)	分譲住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内 22
42	苗間字神明前 564-3の一部	(2016.4.8)	132.35	(38.55)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 24
43	苗間字 589-1	(2016.6.20～24)	1,402	(165.67)	公園	遺構なし、土器		市内 24
44	苗間字神明前 564-5	(2016.7.1～4)	124.05	(30.64)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 24
45	苗間字神明後 349-3、350-4	(2016.8.18・19)	310	(19.44)	個人住宅	ピット、縄文土器等		市内 24
46	苗間 588-10	(2017.2.6)	108	(70)	道路拡幅	遺構なし、縄文土器		市内 24
47	苗間字神明後 354-1	(2017.4.21～24) 2017.4.25～5.2	401	(115.05) 104.7	個人住宅	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		市内 24
48	苗間字東久保 717-3	(2017.5.15)	103	(7)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
49	苗間字東久保 569-1	(2017.5.22・23)	798	(252.8)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
50	苗間字東久保 717-12	(2017.7.10)	132	(23.55)	個人住宅	遺構なし、陶器		市内 24
51	苗間字神明前 510-12・13	(2018.4.26)	112.58	(5.1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
52	苗間字神明前 564-1	(2019.2.12・13)	1,186	(233.61)	老人ホーム・デイサービス	ピット、遺物なし		市内 25
53	苗間字東久保 572-2	(2019.7.30・31)	515	(28.71)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
54	苗間 584	(2019.10.16～21)	800.09	(140.13)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 25
55	苗間神明後 340-15	(2021.5.7)	57.92	(7.5)	駐車場	遺構遺物なし		未報告
56	苗間 338-5 外 14 筆	(2021.11.5～16・12.3～7) 2022.1.20～31	2,919.84	(693.1)	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、溝		市内 26

(2) 遺構と遺物

本書では試掘調査と本調査で検出した遺構について報告し、遺物については令和 4（2022）年度刊行予定の市内遺跡群発掘調査報告書で併せて報告する。遺構の全ては調査区の南側斜面地周辺にみられ、北側ではみられない。調査区の北側にはかつて浄禅寺川が東西方向に流れていたため、人の居住には適さなかったものと推察される。

検出した遺構は、縄文時代の炉穴、土坑、ピットと近世以降とみられる溝である。縄文時代の遺構は調査区南側の斜面地に集中しており、周辺の調査で確認されているものと同時期のものと考えられる。各遺構の詳細は第 37～40 表の一覧表のとおりである。

①炉穴

炉穴は 13 基検出した。隣接する第 18・27・31 地点で確認された縄文時代早期の炉穴と同時期と考えられる。炉穴群の集中する調査区南側の斜面地は、表土層が 20～30 cm と浅い。確認された炉穴も炉穴 12 を除きほとんどが焼土の硬化面のみである。

遺構の残存状況と表土層の薄さから、調査区南側の斜面地が何らかの掘削による影響を受けたものと推察される。

②土坑

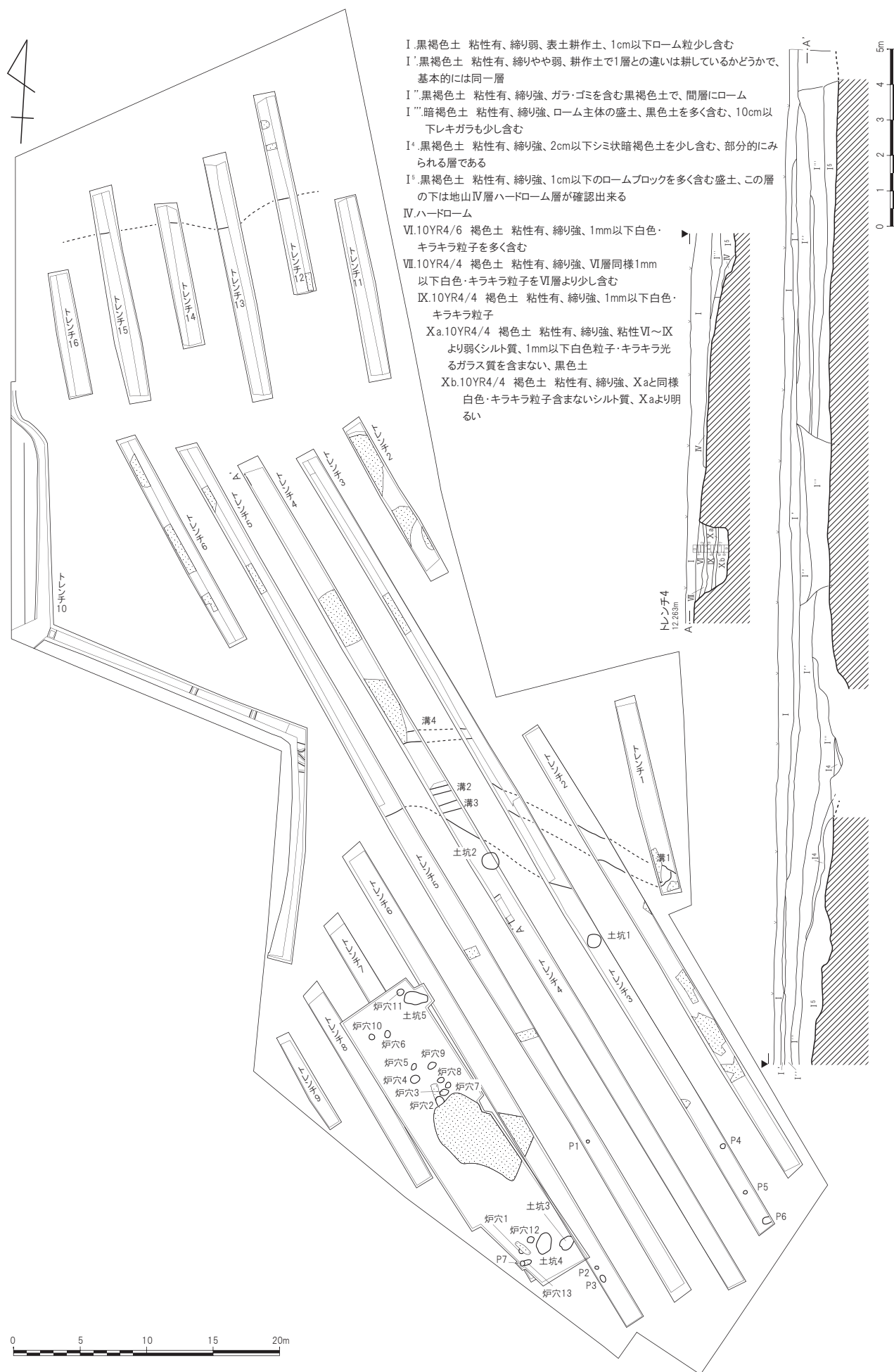
土坑 1 と 2 は調査区中央部やや南側の斜面地で確認され、筒状の深い掘り込みをもつ。土坑 3～5 は炉穴群周辺に位置する。出土遺物と覆土層の観察から縄文時代早期から中期のものと考えられる。

③ピット

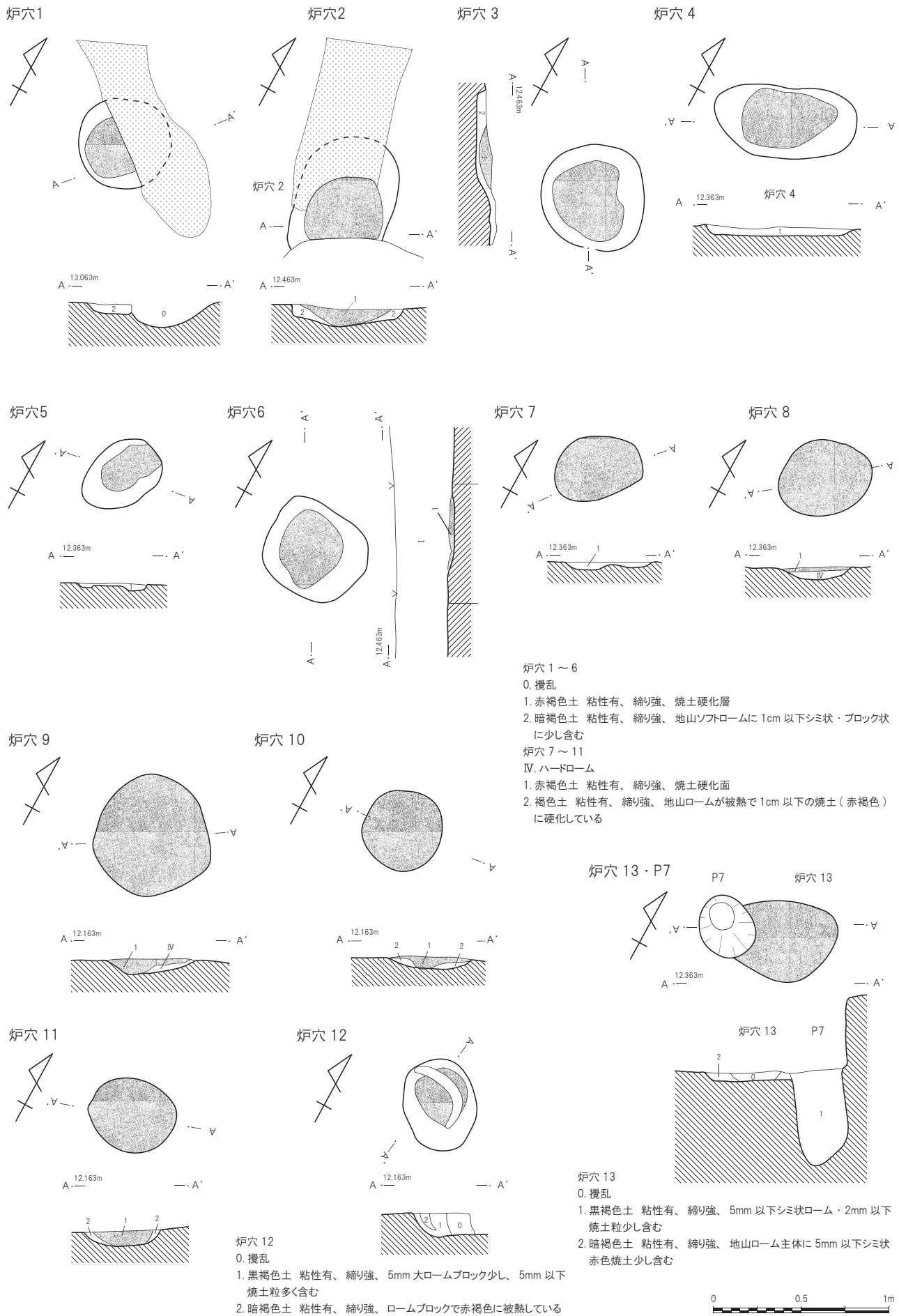
ピットは調査区中央部やや南側の斜面地で確認された。覆土層の観察から縄文時代早期から中期のものと考えられる。



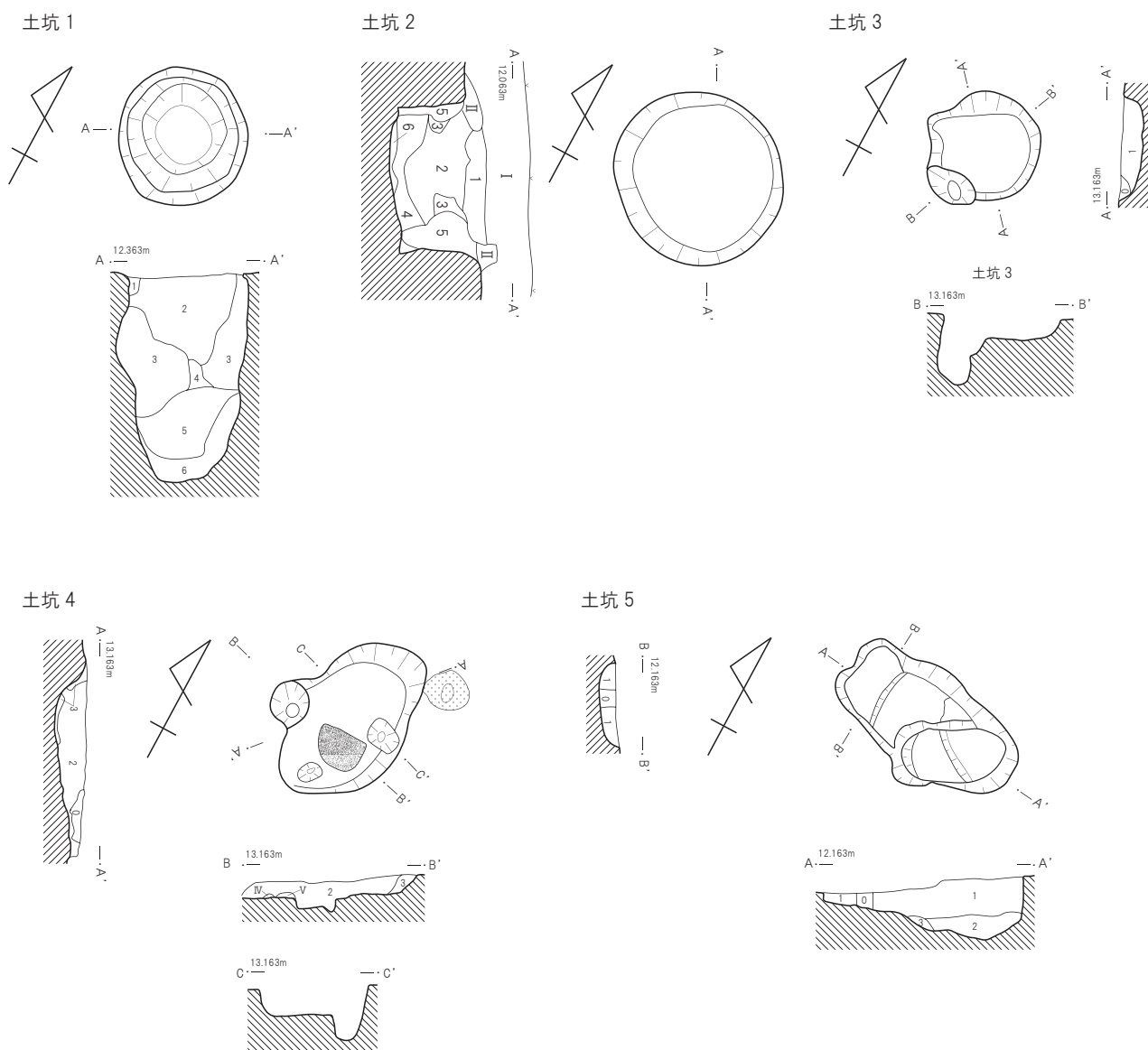
第55図 浄禅寺跡遺跡遺構分布図 (1/2,500)



第56図 浄禅寺跡遺跡第56地点遺構配置図(1/400)、土層(1/150)



第57図 浄禅寺跡遺跡第56地点炉穴(1/30)



土坑 1

1. 暗褐色土 粘性有、締り弱、褐色ロームブロックと暗褐色土の混合
2. 黒褐色土 粘性有、締りやや強、1cm 以下ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土 粘性有、締りやや強、ローム主体に黒褐色土をシミ状に少し含む
4. 黒褐色土 粘性有、締りやや強、1・5 層に類似、ややシミ状ローム多く含む
5. 黒褐色土 粘性有、締りやや強、1 層に類似、2cm 以下ロームブロック少し含む
6. 暗褐色土 粘性有、締りやや強、3 層に類似、やや 3 層よりローム質主体で多い

土坑 3～5

IV. 地山ローム

V. 地山ローム

0. 攪乱

1. 黒褐色土 粘性有、締り強、1mm 以下ローム・焼土粒極少し含む
2. 黒褐色土 粘性有、締り強、2mm 以下ローム・焼土粒多く含む、
1mm 以下炭化物粒極少し含む
3. 黒褐色土 粘性有、締り強、2cm 以下ロームブロック多く含む、
1mm 以下焼土粒少し含む

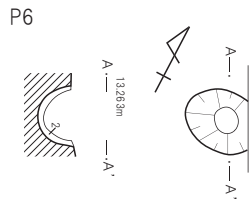
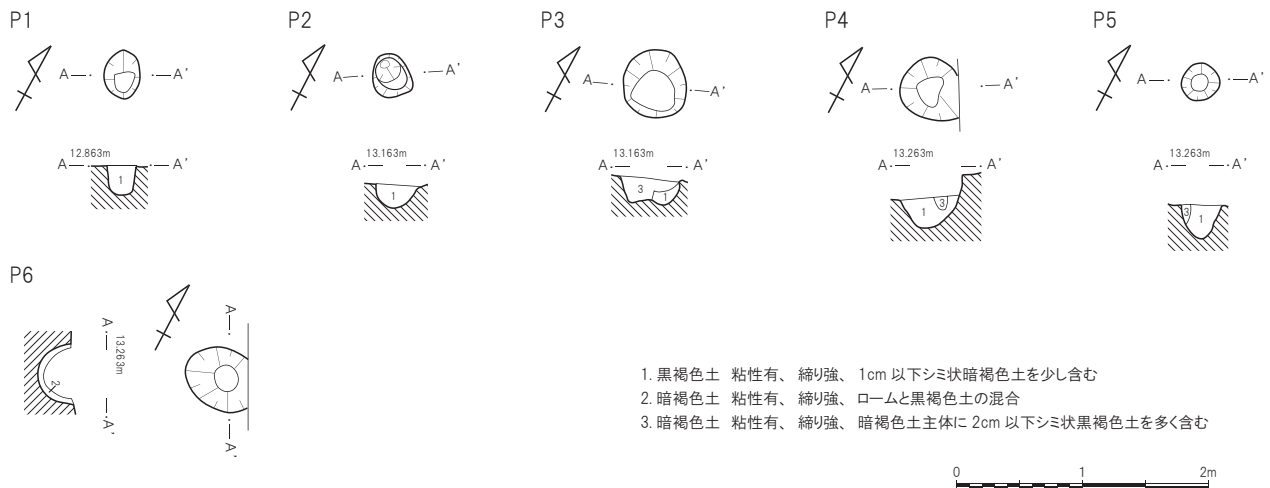
土坑 2

I. 表土

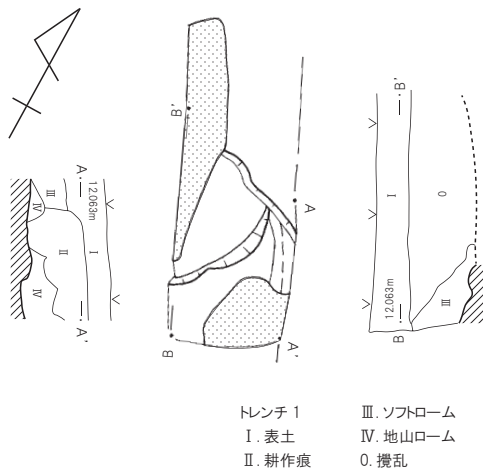
- II. 黒褐色土 粘性有、締り弱、表土耕作土、2cm 以下ローム粒多く含む
1. 黒褐色土 粘性有、締りやや強、5mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 粘性有、締りやや強、3mm 以下ローム粒多く含む、同炭化物少し含む
3. 暗褐色土 粘性有、締りやや強、黒褐色土と暗褐色土の混合、5mm 以下ローム粒多く含む
4. 黒褐色土 粘性有、締り強、2 層より明るく 3mm 以下ローム粒は 2 層より少ない
5. 暗褐色土 粘性有、締り強、ローム崩落土で、シミ状に 1cm 大黒褐色土少し含む
6. 褐色土 粘性有、締り強、ローム地山にシミ状に黒褐色土を少し含む、元々はローム地山が
柔らかくなったもの



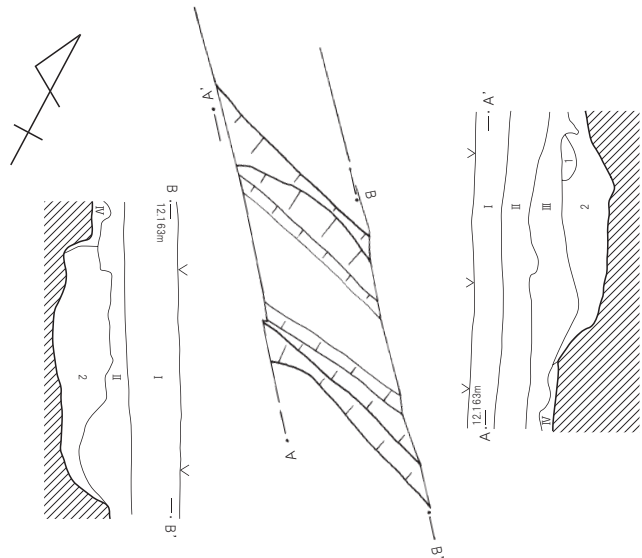
第 58 図 浄禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 (1/60)



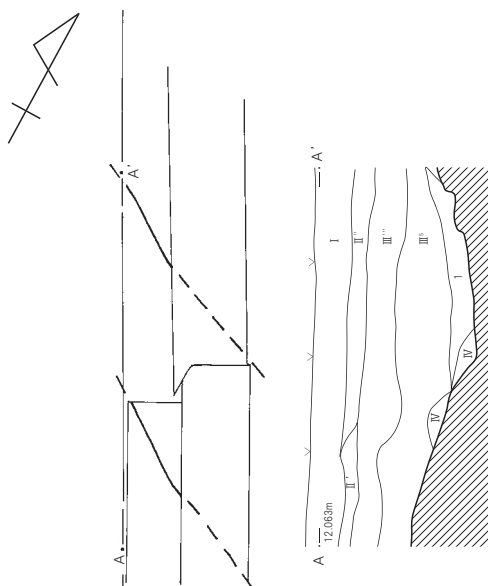
トレンチ1溝1



トレンチ2溝1



トレンチ3溝1



第59図 浄禅寺跡遺跡第56地点ピット(1/60)・溝(1/80)

④溝

溝 1 は調査区中央部を北西から南東方向に延びる。出土遺物がないので時期は不明であるが、覆土層の観察から近世以降と考えられる。これまでの浄禅寺跡遺跡で確認されている中世期や近世期の堀跡の覆土層とは明らかに色調や締り方が異なる。ローム土質のものであり近世以降の時期と考えられる。

溝 2 ～ 4 は、東西方向に延び、攪乱により詳細は不明であるが、覆土層の観察から近世以降とみられる。

第 37 表 浄禅寺跡遺跡第 56 地点炉穴一覧表 (単位 cm) 第 39 表 浄禅寺跡遺跡第 56 地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	焼土範囲	深さ
1	(円形)	53 × 52	59 × (27)	6.7
2	(橢円形)	60 × (58)	45 × (35)	3.0
3	円形	60 × 59	45 × 38	1.4
4	橢円形	81 × 40	55 × 34	1.2
5	橢円形	47 × 34	36 × 20	0.8
6	隅丸方形	57 × 52	45 × 36	0.7
7	橢円形	51 × 36	51 × 36	0
8	橢円形	56 × 43	56 × 43	1.3
9	円形	67 × 67	67 × 67	1.6
10	円形	46 × 44	46 × 44	0.4
11	橢円形	50 × 47	50 × 47	5.7
12	橢円形	51 × 43	30 × 27	4.3
13	不明	47 × (46)	47 × (46)	0

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	橢円形	40 × 28	16 × 15	25.3
2	円形	34 × 28	7 × 6	31.9
3	円形	54 × 50	34 × 30	37.1
4	不明	49 × (46)	23 × 20	25.5
5	円形	30 × 30	14 × 13	35.8
6	不明	50 × (49)	20 × 20	28.5
7	円形	35 × 32	15 × 14	55.9

第 40 表 浄禅寺跡遺跡第 56 地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ
1	逆台形	170 ～ (185)	53 ～ (128)	62.1
2	不明	50	—	15.9
3	不明	60 ～ 70	—	25.3
4	不明	50 ～ 110	—	15.9

第 38 表 浄禅寺跡遺跡第 56 地点土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	120 × 116	50 × 50	189
2	円形	150 × 147	129 × 123	89.9
3	円形	107 × 95	17 × 10	20.4
4	橢円形	160 × 117	46 × 38	17.3
5	橢円形	170 × 100	45 × 43	61.4



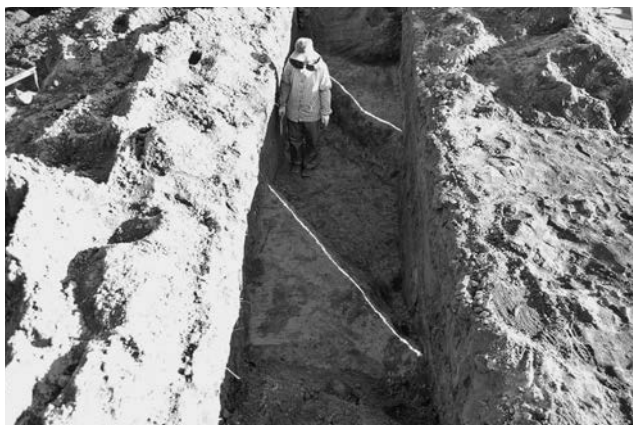
浄禅寺跡遺跡第 56 地点表土除去



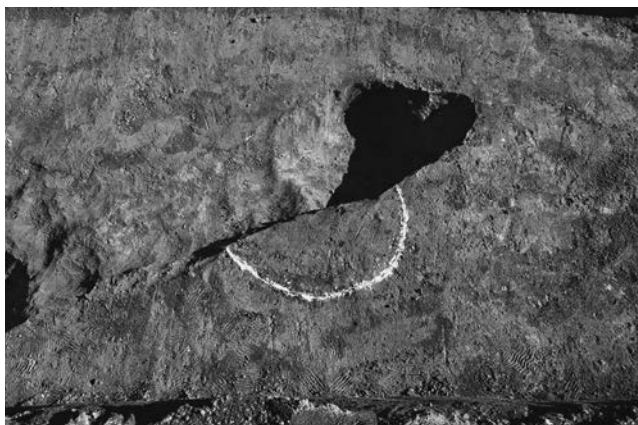
浄禅寺跡遺跡第 56 地点トレンチ 3



浄禅寺跡遺跡第 56 地点トレンチ 1 溝 1



浄禅寺跡遺跡第 56 地点トレンチ 2 溝 1



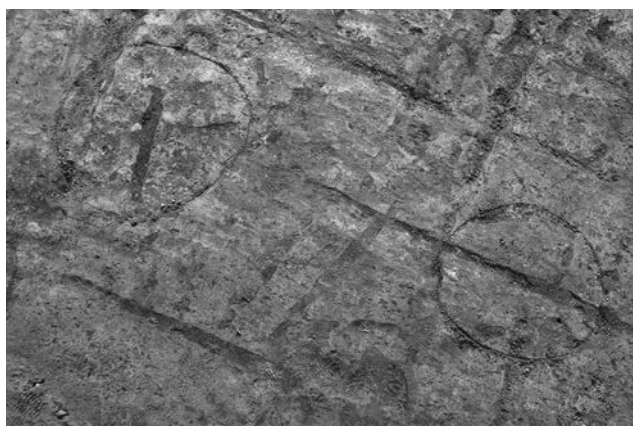
浄禅寺跡遺跡第 56 地点炉穴 1



浄禅寺跡遺跡第 56 地点炉穴 2・3・7・8



浄禅寺跡遺跡第 56 地点炉穴 4・5・9



浄禅寺跡遺跡第 56 地点炉穴 6・10



浄禅寺跡遺跡第 56 地点全景① (南から)



浄禅寺跡遺跡第 56 地点全景② (南から)



浄禅寺跡遺跡第 56 地点全景③ (西から)



浄禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 1



浄禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 1 土層



浄禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 2



浄禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 3・4、炉穴 12・13



浄禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 5、炉穴 11

第4章 浄禅寺跡遺跡第56地点の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2022年4月現在、57地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡4軒、中・近世の薬研状の堀や遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壇墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

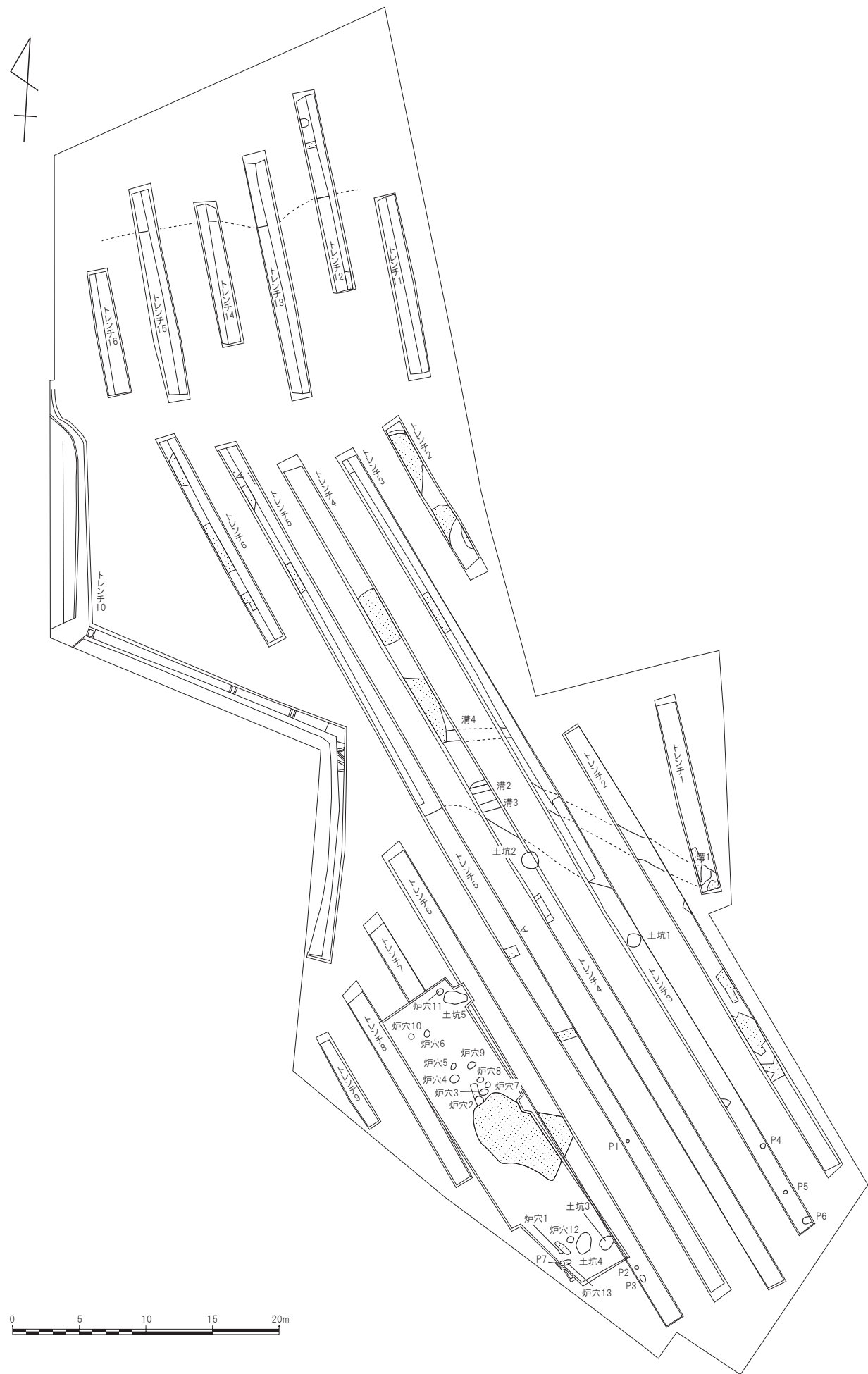
II 浄禅寺跡遺跡第56地点

(1) 調査の概要

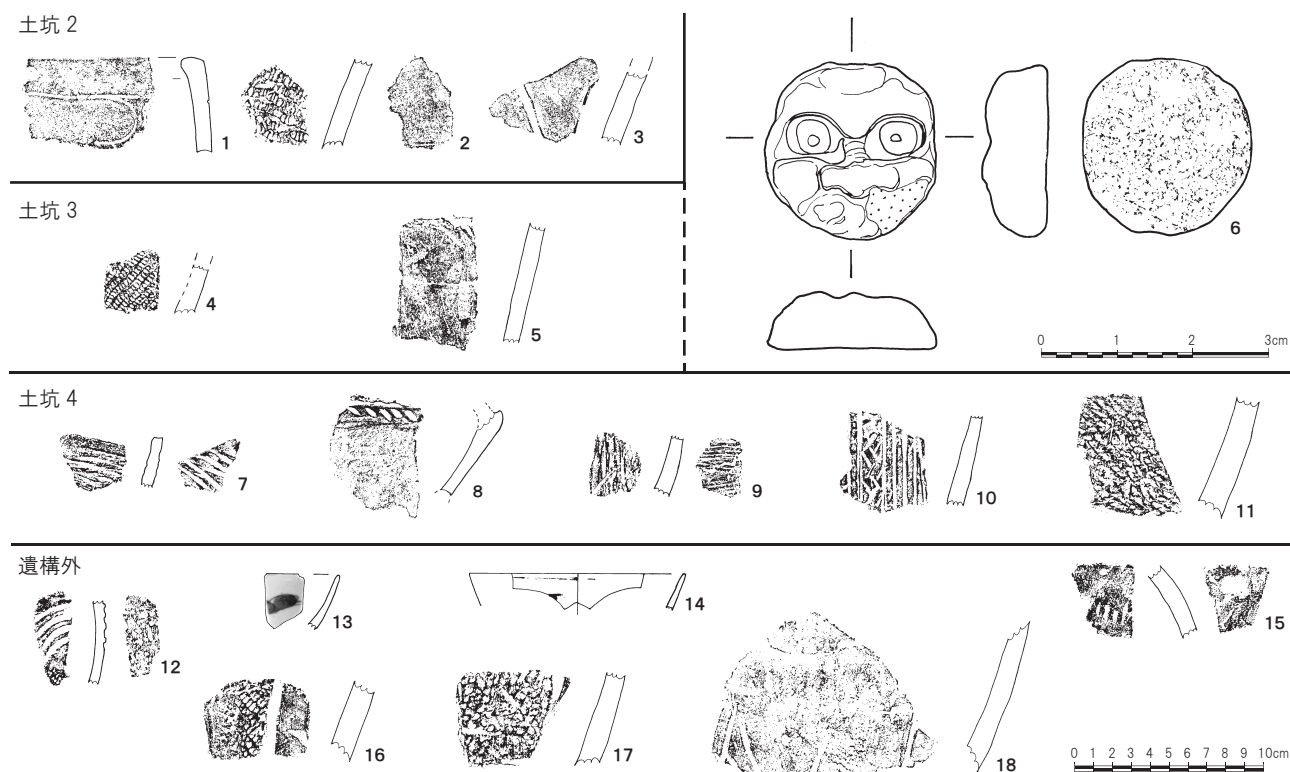
調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2021年10月18日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。試掘調査は2021年11月5～16日及び12月3～7日に行った。調査は幅約1.5mのトレンチ16本を設定し、重機で表土除去後人力で表面精査を行った。確認面までの深さは0.2～2.0mである。調査の結果、縄文時代の土坑5基、炉穴13基、時期不明の溝4条を検出した。遺構の保存が困難なため、原因者と再協議の結果2022年1月20～31日まで本調査を実施した。なお、旧石器時代の調査は実施していない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺構の詳細については、2021年度刊行の『市内遺跡群26』にて報告済みである。出土遺物については第113図及び第42表に掲載した。



第 112 図 浄禅寺跡遺跡第 56 地点遺構配置図 (1/400)

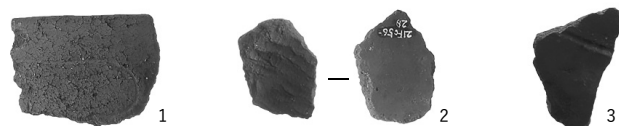


第 113 図 浄禅寺跡遺跡第 56 地点出土遺物 (1/4・1/1)

第 42 表 浄禅寺跡遺跡第 56 地点出土遺物観察表 (単位cm・g)

図版 番号	出土遺構	種別・器種	口径・ 長さ	底径・幅	高さ・厚 さ	技法・文様・備考	時期・型式
1	土坑 2	縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	口縁部片、細い沈線による区画文、口唇部は内側に肥厚	堀之内式期
2		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、地紋は LR を縦方向に施文	加曽利 E 式期
3		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、沈線で区画された懸垂文と曲線の文様	加曽利 E 式期
4	土坑 3	縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、地紋 RL、沈線で区画された懸垂文の一部	加曽利 E 式期
5		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、無文部分	加曽利 E 式期
6		泥面子	2.3	2.2	0.8	芥子面、ひよこ、面模	幕末～明治
7	土坑 4	縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	口縁部片、波状口縁、内外面貝殻条痕文	縄文早期末
8		縄文式土器・ 浅鉢	—	—	—	胴部片、算盤形、端部に斜方向のキザミ	縄文後期
9		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、内外面貝殻条痕文	縄文早期末
10		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、竹管文による垂下する集合条線の間にジグザク文を配する	五領ヶ台式期
11		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、地紋は撚りの弱い LR	加曽利 E 式期
12	遺構外	縄文式土器・ 器形不明	—	—	—	重弧文、薄手	加曽利 B 式期力
13		染付磁器・丸碗	—	—	—	呉須染付、肥前系	18・19 世紀
14		染付磁器・小広 東碗力	—	—	—	呉須染付、肥前系	18・19 世紀
15		焼締陶器・壺	—	—	—	外面平行押印、渥美	12 世紀末～13 世紀初頭
16		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、懸垂文、地紋 LR	加曽利 E 3 式期
17		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、懸垂文、地紋 RL	加曽利 E 3 式期
18		縄文式土器・ 深鉢	—	—	—	胴部片、沈線で V 字の懸垂文	加曽利 E 4 式期

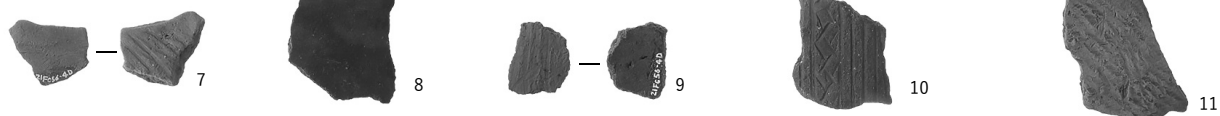
土坑 2



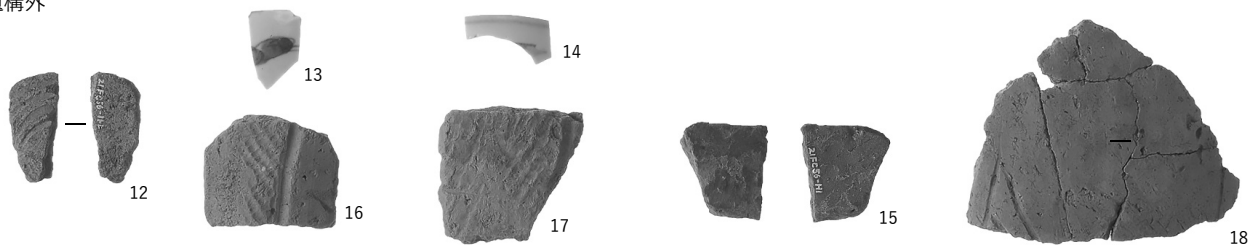
土坑 3



土坑 4



遺構外



浄禅寺跡遺跡第 56 地点出土遺物